

II-B-11

虚寒証の腰痛、下肢痛に対する牛車腎気丸 と修治ブシ末の併用効果

国立鯖江病院整形外科（現川崎医科大学整形外科）

○中川 洋

【目的】高齢化社会の到来に伴い腰痛、下肢痛を訴え整形外科外来を受診する患者は増加傾向にある。今後もさらに増加してくると考えられるので腰痛、下肢痛の病態の認識とその適切な治療法の選択は重要な課題といえる。

今回、虚寒証の腰痛、下肢痛の症例に対して牛車腎気丸と修治ブシ末を併用し、その臨床効果について検討した。

【対象と方法】対象は、当科外来通院中の65歳から83歳（平均年齢70.6歳）までの10例（男性6例、女性4例）で、全例ツムラ牛車腎気丸を4週間単独投与し効果が得られなかった虚寒証の症例で、ツムラ牛車腎気丸はそのまま継続とし修治ブシ末の併用投与を行った。原則として他の薬剤は併用しないこととしたが、骨粗鬆症の2症例に関しては活性型ビタミンD₃製剤等の併用を行った。病名の内訳は、変形性脊椎症が6例、骨粗鬆症が2例、腰部脊柱管狭窄症が1例、根性坐骨神経痛が1例であった。

投与期間は、4カ月から1年6カ月で平均9.7カ月であった。臨床評価は日本整形外科学会腰痛治療成績判定基準（JOAスコア）に従って、自覚症状、他覚所見、日常生活動作、の3項目に関して検討を行った。

【結果】投与前後のJOAスコアによる合計得点を比較すると29点満点で投与前平均14.5点が投与後平均21.8点と有意な改善（ $p < 0.01$ ）が認められた。自覚症状得点では9点満点で投与前平均4点が投与後平均6.6点へと有意な改善（ $p < 0.05$ ）が認められた。

他覚症状得点では6点満点で投与前平均4.2点が投与後平均4.8点へと改善が認められた。

日常生活動作では14点満点で投与前平均6.3点が投与後平均10.3点へと有意な改善（ $p < 0.05$ ）が認められた。副作用は特に認められなかった。

【考察】今回、腰痛、下肢痛の症例に対して牛車腎気丸と修治ブシ末の併用療法が奏効したメカニズムは明らかではないが、本症例が虚寒証であり、これを修治ブシ末が補ったため相乗効果を呈したものと考えられた。

【結論】虚寒証の腰痛、下肢痛に対して牛車腎気丸と修治ブシ末の併用治療を行うことは有意義であると考えた。